

アフリカにおける JICAの基礎教育協力

すべての子どもに、学ぶよろこびを



AFRICA

独立行政法人 国際協力機構
人間開発部

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル1階～6階
TEL: 03-5226-6660(代) <http://www.jica.go.jp>

2019年8月



独立行政法人 国際協力機構

急成長するアフリカ、
その未来を支える子どもたちは
質の高い教育を必要としています。

アフリカの人口は2050年には25億人に達し、その6割を若年層が占める見込みです。この人口増加をアフリカの社会経済発展につなげるためには、未来のアフリカを支えるすべての子どもに質の高い教育を提供していくことが重要です。

サブサハラ・アフリカ地域では、過去20年間で就学者が大幅に増加しましたが、いまだに約6,000万人の子どもが学校に通っていません。さらに、学校の授業・教材・インフラなど教育の質にも様々な課題があり、約2億人（地域全体の学齢期の子どもの約9割）の子どもたちが基礎的な学力を身につけていないと言われています。

子どもに学びを届けたい

アフリカの子どもたちが読み書き計算などの基礎的な学力や自ら学び考える力を身につけ、学習意欲を高めていくことを目指し、JICAは理数科教員育成、学校運営・学習環境改善を通じた「学びの改善」を推進します。

学びの改善

約**2,400**万人の子どもに
質の高い教育環境を提供

(2013-2018年度実績)



算数ドリル補習の様子

先生の教える力を高めたい

子どもの学びの改善には教員の育成、とくに授業実践力の向上が欠かせません。JICAは、主に理数科の現職教員研修や教員養成の改善により教員の職能開発を支援します。

教員研修

13カ国 約**26**万人の教員に
理数科教育の研修を実施

(2013-2018年度実績)



理数科研修を受講する教員（ケニア）

みんなで学校を良くしたい

子どもの学びを支えるのは学校だけではありません。地域コミュニティのサポートが不可欠です。JICAは、コミュニティと学校、行政が一体となって学校運営や子どもの学習環境の改善に取り組む「みんなの学校」をアフリカに拡充します

学校運営改善

3カ国 約**3万7千**校に
みんなの学校を拡充

(2013-2018年度実績)



学校運営計画採択総会の様子

アフリカの子どもに、学ぶよろこびを

アフリカの
豊かな未来のため、
JICAはこれからも
基礎教育協力を
続けていきます。

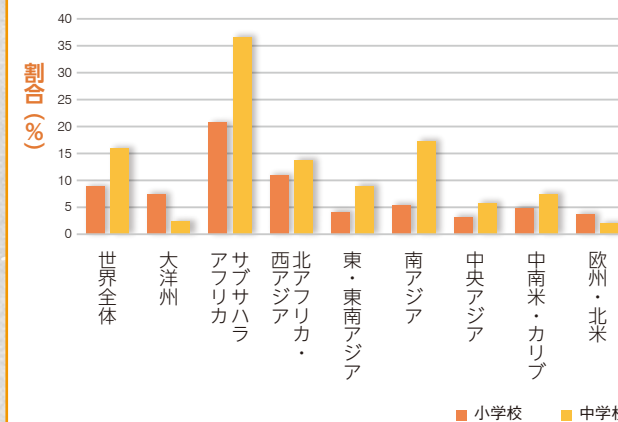
取組の
今後の
成果と
方針

JICAは、1990年代にアフリカにおける基礎教育協力を本格的に開始しました。それ以来、アフリカ各国・機関と連携して、教育へのアクセスの拡大、教育の質の向上、マネジメントの強化などに取り組んできました。

JICAは、長年の協力経験で培った信頼と実績、現場の知見を活かし、日本政府が2013年の第5回アフリカ開発会議（TICAD V）で掲げた「2,000万人の子どもに対して質の高い教育環境の提供（2013-2017年）」、続く2016年の第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）で掲げた「2万人の理数科教員育成（2016-2018年）」の目標達成に貢献しました。

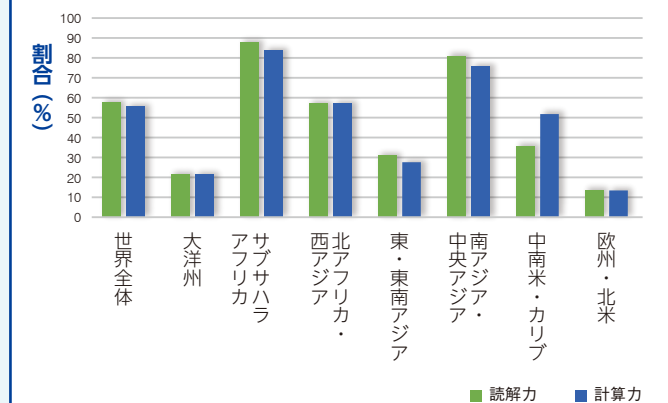
JICAはこれからも基礎教育協力を通してアフリカの豊かな未来づくりに貢献していきます。そのために、教育政策・制度の策定、教員の育成、学校運営の改善、学校建設など、アフリカ各国のニーズに応じて協力内容を検討し、他ドナーと力を合わせて総合的なソリューションを提供します。

学校に通えない子どもの割合



(UNESCO, 2018)

最低限必要な学力が身につけていない子どもの割合



(UNESCO, 2017)

CASE

1

学校運営改善：アフリカ7カ国

コミュニティ・学校・行政の協働で子どもの学びを改善



地域の学校作りの様子

*これまでに「みんなの学校」アプローチを取り入れた技術協力を実施した国：ニジェール、セネガル、マリ、ブルキナファソ、コートジボワール、マダガスカル、ガーナ

アフリカ*4万5千校に広がる「みんなの学校」

JICAは2004年から、西アフリカ地域を中心に「みんなの学校」プロジェクトを実施してきました。このプロジェクトは、コミュニティと学校、行政の協働を通じて、学校と子どもを取り巻く様々な課題を解決しています。これまでに多くの国で就学率の向上に貢献し、近年は、学力試験の結果共有や算数ドリルを用いた補習授業を通じて、基礎的な学力の改善にも力をいれています。これまで「みんなの学校」プロジェクトはアフリカの4万5千校に展開しています。ニジェールでは、3,500校の小学1年生から4年生（約30万人）の算数の正答率が約40%から70%に向上するなど、子どもの学びの改善に貢献しています。

CASE

2

教員研修：アフリカ27カ国

理数科教育の改善－教員の授業実践力を強化



理科実験に取り組むケニアの子ども

基礎的な学力、自ら考える力を育む授業実践

JICAはアフリカの理数科教育の強化を目的として、1998年以来、27カ国で現職教員研修や教員養成を改善するための協力を展開し、37万人を超える教員に研修を実施しました。ケニアでは、教員研修に協力した結果、生徒が自ら考える力を育む授業が増え、理数科に関心を持つ生徒も増えました。また、ザンビアや南アフリカでは、教員の学び合いを促進する日本発の校内研修（授業研究）の導入・普及に協力しています。

最近では、セネガルやエチオピアで算数教材の開発に協力するなど、子どもが基礎的な学力を確実に身につけるための協力も実施しています。

JICA教育協力ウェブサイトはこちらから
<https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/index.html>

対応の携帯電話をお使いの方は、右記のQRコードからアクセス可能です。



CASE

3

日本の特徴を活かした教育協力

学級会、日直、掃除を通じた子どもの学びへ

日本の教育は、学級会、日直、掃除など特別活動に代表されるカリキュラムを通じ、主体性や協調性など人間性や社会的スキルの向上にも長年にわたり取り組んできました。近年、こうした非認知スキルの重要性は国際的にも言及されるようになっており、日本の教育にも大きな注目が集まっています。JICAは、現地の社会文化に配慮しつつ、エジプトにおける特別活動の導入を支援し、対象校の校長先生から「子どもの責任感や協調性が増した」と評価されています。



学級会で話し合うエジプトの子ども

CASE

4

学校建設：アフリカ27カ国

アフリカの子どもたちのための学校建設



建て替え後の校舎で学ぶ子ども

アフリカの子どもたちの学習環境を改善するために、日本政府・JICAは1985年からアフリカで学校建設を開始しました。これまでにアフリカ27カ国で小・中学校あわせて約1万8千教室を整備し、120万人以上の子どもたちが教育を受けることができました。

子どもが安全に安心して学べる環境を整えるだけでなく、トイレや井戸など衛生施設も同時に整備し、子どもが健康的に学べる環境づくりにも日本は貢献しています。

CASE

5

JICA海外協力隊：アフリカ31カ国

現地に根づくボランティア活動



ザンビアの学校で教える理数科教師隊員

アフリカ大陸におけるJICA海外協力隊の活動は、1966年、独立間もないケニアに体育隊員1名を含む3名の若者が派遣されたのが始まりです。小学校教育、理数科教育、体育、幼児教育を中心とする基礎教育分野では、これまでにアフリカ31カ国に約4,300人が派遣されました。これはアフリカに派遣された全JICA海外協力隊員の4人に1人に相当します。

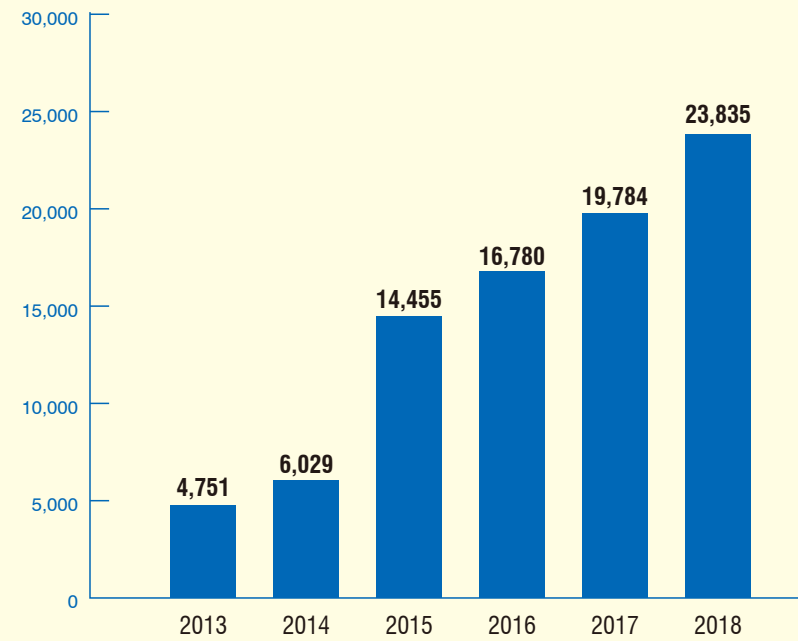
現地の人々はJICA海外協力隊を通じて初めて日本という国を知ることも多いため、教育現場での活動以外にも、アフリカと日本の友好関係を築く重要な役割も担っています。

JICA の 実績 2013-2018

TICAD V・VIの対象期間にあたる2013年から2018年の6年間で、教員研修、学校運営改善、学校建設の3つの取り組みを合わせた裨益児童・生徒数は、約2,384万人にのぼります。アフリカにおける基礎教育（小・中学校レベル）学齢期の子ども約10人に一人が、JICAの教育協力の恩恵を受けている計算になります。

教員研修	受講教員数	約 26 万人	→	裨益児童数	約 1,683 万人
学校運営改善	実施校	約 3万7千校	→	裨益児童数	約 667 万人
学校建設	初・中等学校	約 4,100 教室	→	裨益児童数	約 34 万人
合計				裨益児童数	約 2,384 万人

裨益児童・生徒数 (千人)



アフリカ24カ国で2013-2018年の6年間に約2,400万人¹の子どもが質の高い教育を受けることができました。

*1：アフリカにおける基礎教育学齢期の子ども約10人に一人に相当します。

「子どもが夢中で手を挙げる算数の授業」をルワンダへ — ICT教材で教育の質改善に貢献 —

さくら社（東京都）は、日本の小学校算数の指導内容と指導方法をソフトウェア化したICT教材「Interactive Mathematics (IM)」(日本語名：「子どもが夢中で手を挙げる算数の授業」)を開発し、ルワンダで2016年より導入・普及・実証調査を進めています。同社の教材は、動き・音・操作を豊富に取り入れることで、子どもが丸暗記をするのではなく、体感しながら算数を学び、反復練習を通じて知識が定着することを狙っています。また同社の教材を活用した教員は、授業力も向上していることが調査により明らかになりました。

